

アンケート調査結果

1 調査概要

本計画を策定するにあたって、以下の要領でアンケート調査を実施しました。

調査対象

市民 2,000 人（無作為抽出）

事業者 200 事業所（無作為抽出）

実施期間

2019（R 1）年 9 月 6 日～2019（R 1）年 9 月 20 日

配布・回収方法

郵送配布・郵送回収

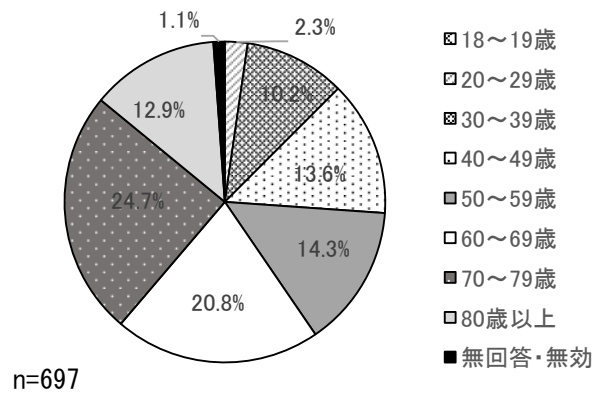
調査票の回収状況

	配布数	回収数	回収率
市民	2,000 件	697 件	34%
事業者	200 件	103 件	51%

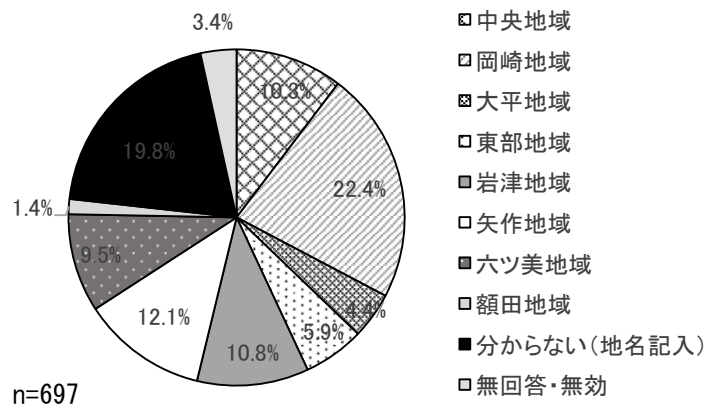
2 市民アンケート調査結果

回答者の属性

問1 あなたの年齢は次のうちどれですか。当てはまる番号を○で囲んでください。



問2 あなたのお住まいの地域は、次のうち、どれですか。当てはまる番号を○で囲んでください。

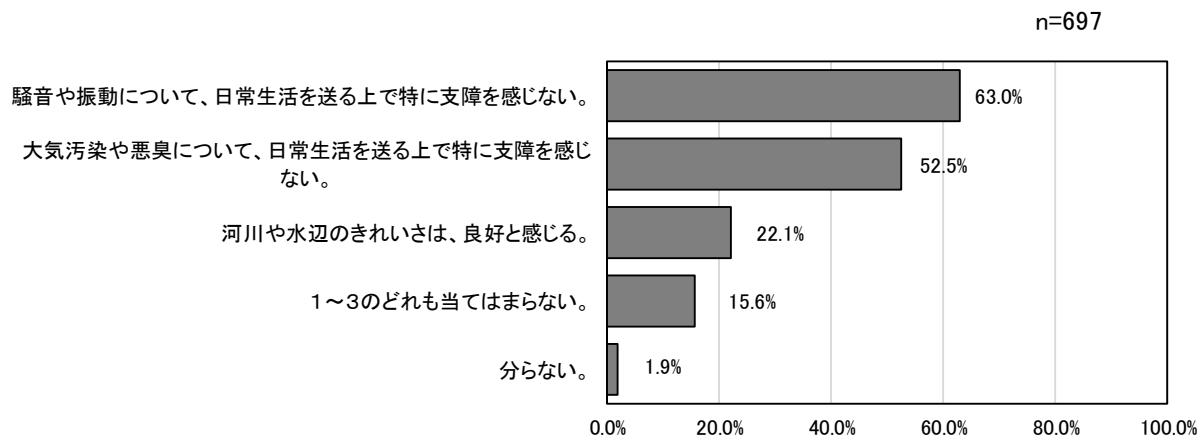


岡崎市の環境についてあなたが感じていることをお書きください。

問4 ご自宅の周囲の生活環境について、当てはまる番号を○で囲んでください。（複数選択可）

自宅の周囲の生活環境について、最も回答した割合が大きいのは、「騒音や振動について、日常生活を送る上で特に支障を感じない。」で63.0%でした。

一方で、河川や水辺のきれいさについて良好と感じると答えた割合は22.1%となっています。

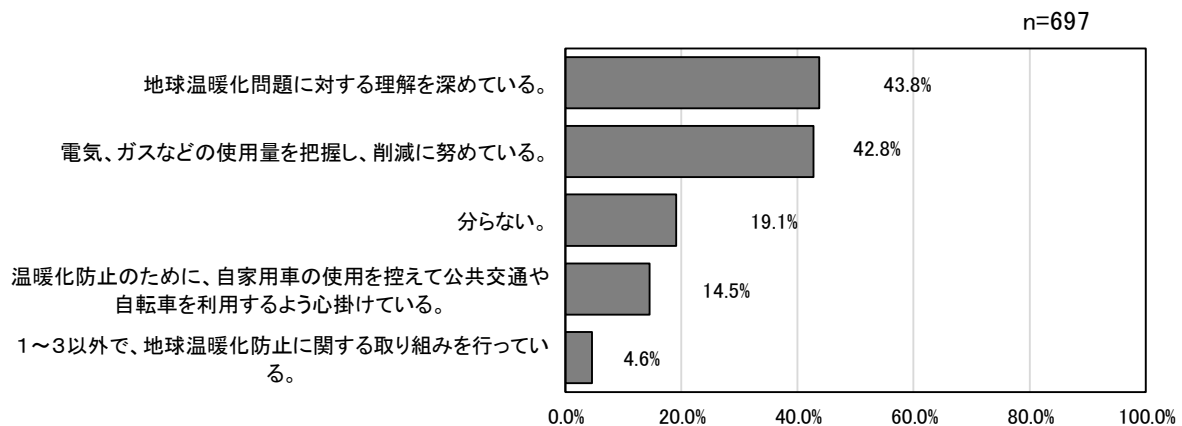


問5 地球温暖化問題について、当てはまる番号を○で囲んでください。（複数選択可）

地球温暖化問題について、最も回答した割合が大きいのは、「地球温暖化問題に対する理解を深めている。」で43.8%でした。

具体的な行動としては、電気、ガスなどの使用量の把握や削減（42.8%）、自家用車の使用を抑えている（14.5%）でした。

その他の取組としては、ハイブリッドカーの使用、庭への植樹（木陰づくり）、買い物袋の持参、省エネ性能に優れた電化製品への買い替え、アイドリングストップ、太陽光発電の利用、打ち水といった回答がありました。

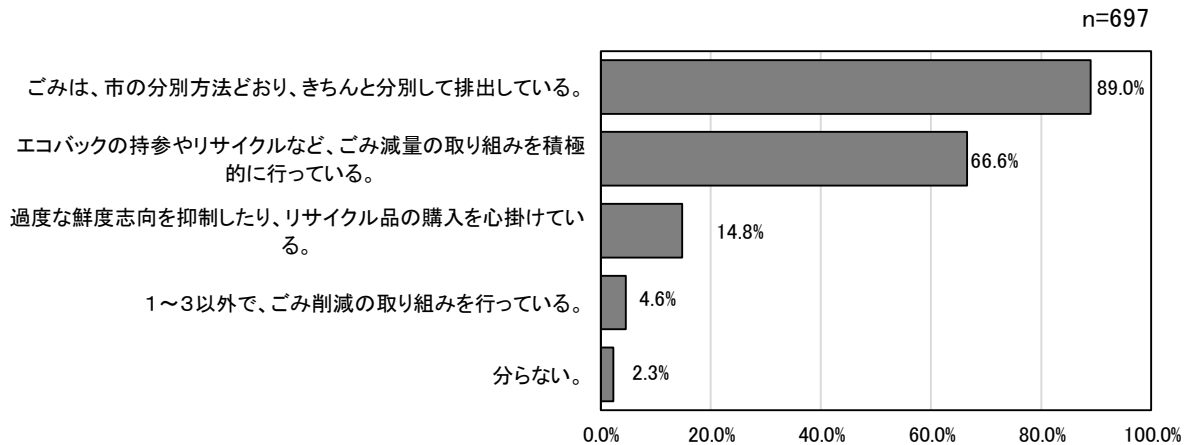


問6 ごみ問題について、当てはまる番号を○で囲んでください。(複数選択可)

ごみ問題について、最も回答した割合が大きいのは、「ごみは、市の分別方法どおり、きちんと分別して排出している。」で 89.0%でした。

エコバックの持参やごみ減量の取組も 66.6%が行っていると回答しています。

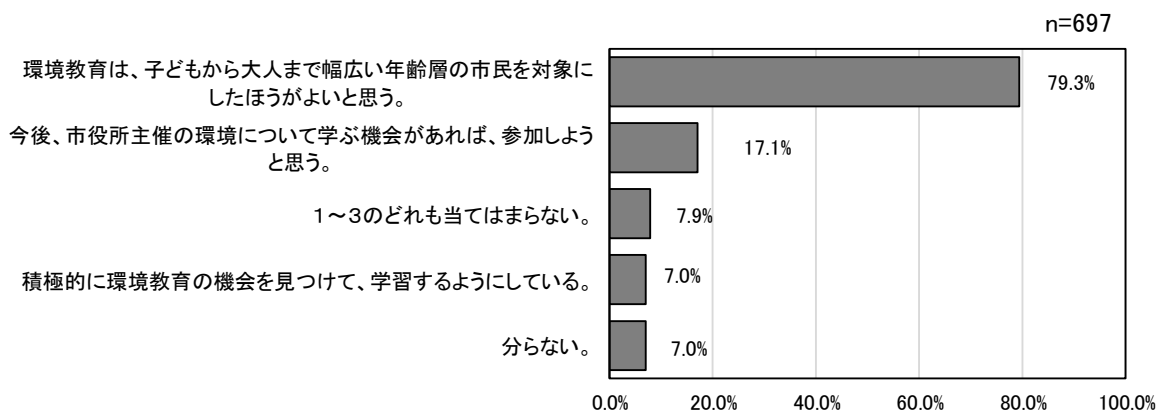
その他の取組としては、不要なものを買わない、プラスチックごみの削減、生ごみの土への埋戻し（堆肥化）、自分で製品等を修理する、食品ロス削減、資源回収への協力、詰め替え商品の購入などの回答がありました。



問7 環境教育について、当てはまる番号を○で囲んでください。(複数選択可)

環境教育について、最も回答した割合が大きいのは、「環境教育は、子どもから大人まで幅広い年齢層の市民を対象にしたほうがよいと思う。」で 79.3%でした。

一方で、「積極的に学習している」と答える割合は 7.0%、今後の環境学習への参加意向（「今後、市役所主催の環境について学ぶ機会があれば参加しようと思う」）は 17.1%でした。



問8 岡崎市の環境の取組に関して、(ア)現状の満足度と(イ)取組の重要度について、それぞれ5段階のうち当てはまる番号を一つずつ選び、○で囲んでください。

(ア) 現状の満足度

岡崎市の環境の取組に関して、「とても満足」、「どちらかといえば満足」をあわせた割合が最も大きいのは「ごみ減量とリサイクルなど廃棄物の適正処理に関する取組」の61.8%、次いで、「歴史的な資産を保全・活用する取組」の56.9%となっています。

一方で、「不満」、「どちらかといえば不満」をあわせた割合が最も大きいのは「良好な都市景観を創造する取組」の30.5%、「人と自然がふれあえる場を確保する取組」の29.4%となっています。

また、市民、事業者の環境活動に対する支援などの取組については46.8%、地球温暖化防止やオゾン層保護については44.6%が「良くわからない」と回答しています。市の取組が市民に伝わっていない可能性が考えられます。

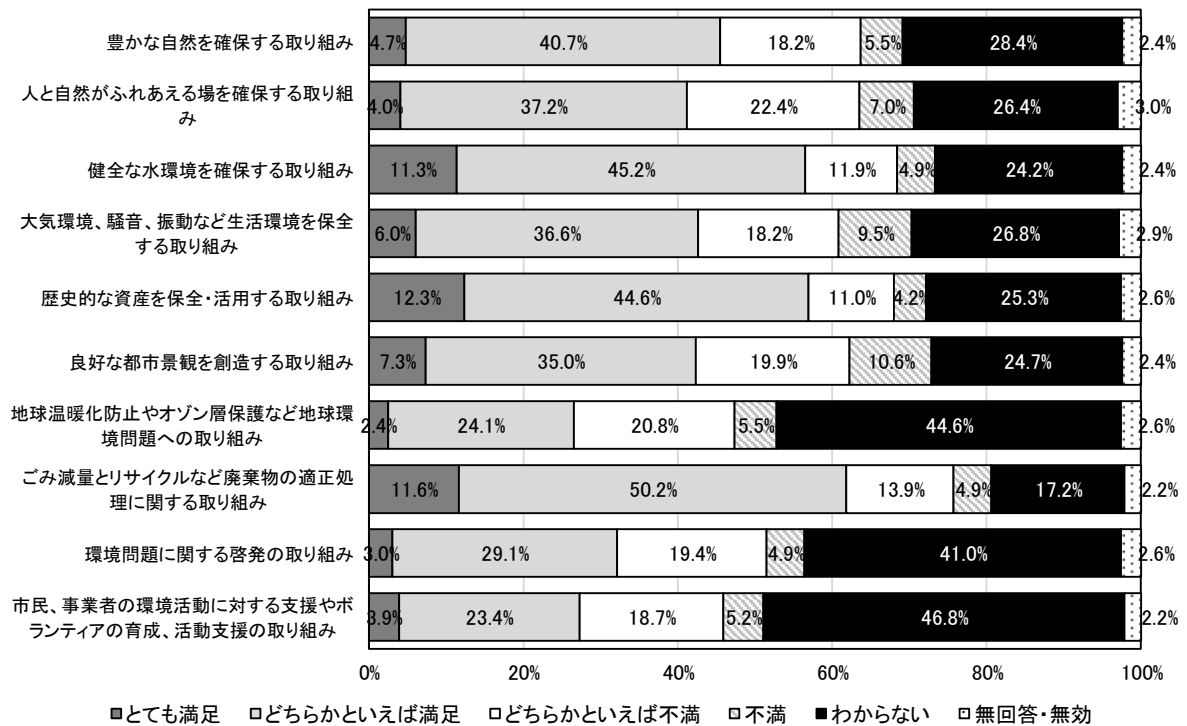
(イ) 取組の重要度

取組の重要度について、「重要」、「どちらかといえば重要」と答えた割合が最も大きいのは「ごみ減量とリサイクルなど廃棄物の適正処理に関する取組」の90.4%、次いで、「健全な水環境を確保する取組」で89.7%でした。

一方で、「重要でない」、「どちらかといえば重要でない」と答えた割合が最も高かったのは、「良好な都市景観を創造する取組」の13.0%、次いで、「歴史的な資産を保全・活用する取組」の9.9%となっています。

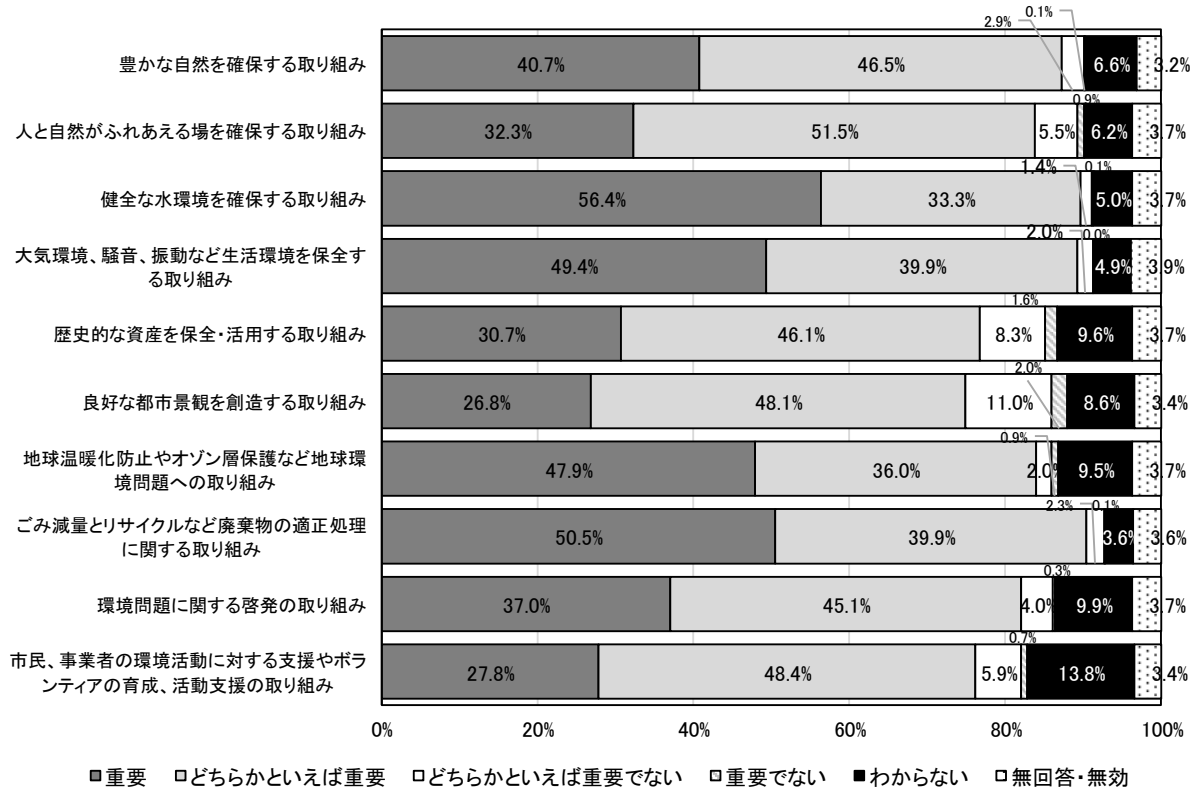
岡崎市の環境の取り組みに関して、現状の満足度

n=697



取り組みの重要性

n=697

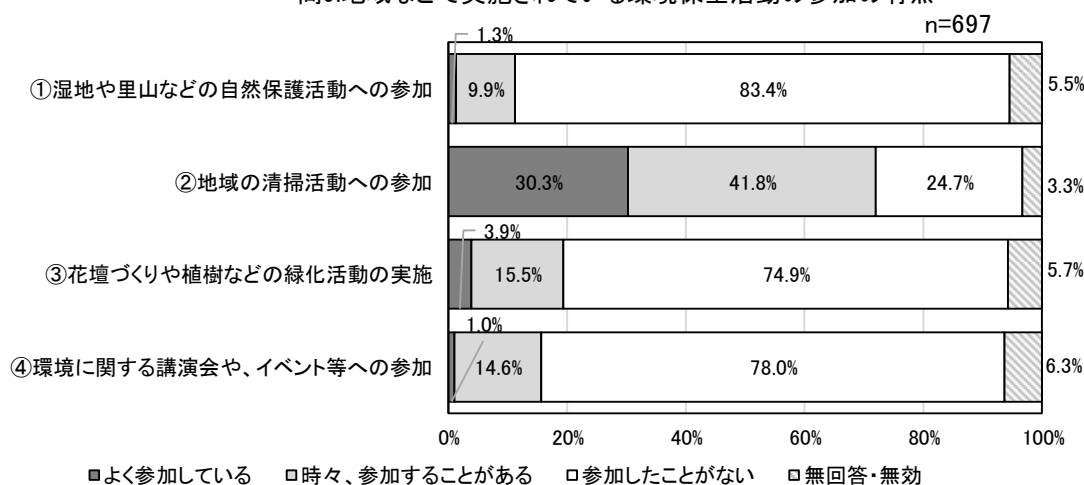


問9 あなたの、環境保全活動への参加について、それぞれ1～3から当てはまる番号を一つ選び、○で囲んでください。また、「3(参加したことがない)」に○をつけた方は、今後、参加してみたいかどうかについて、右の欄に○をつけてください。

地域などで実施されている環境保全活動で「よく参加している」と答えた割合が最も大きいのは「地域の清掃活動への参加」で 30.3%、「時々参加する」と合計すると 72.1%でした。

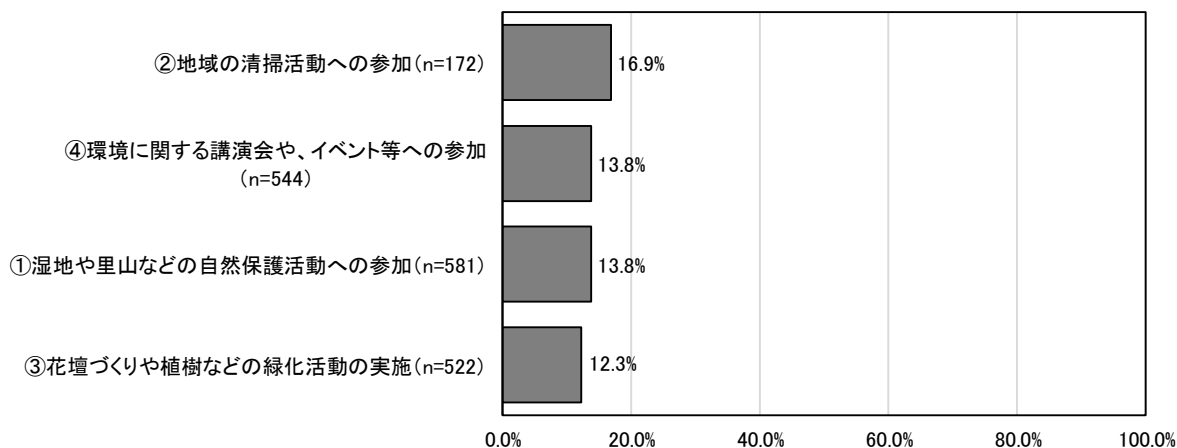
一方で、「自然保護活動への参加」や、「環境に関する講演会やイベントへの参加」は 8 割程度が「参加したことがない」と答えています。

問9.地域などで実施されている環境保全活動の参加の有無



参加したことがない環境保全活動のうち、「今後、参加してみたい」と答えた割合が最も大きいのは、「地域の清掃活動への参加」で 16.9%でした。「環境に関する講演会や、イベント等への参加」、「湿地や里山などの自然保護活動への参加」、「花壇づくりや植樹などの緑化活動」なども 1 割強の回答者が「今後参加してみたい」と答えています。

問9.今後参加してみたい地域などで実施されている環境保全活動

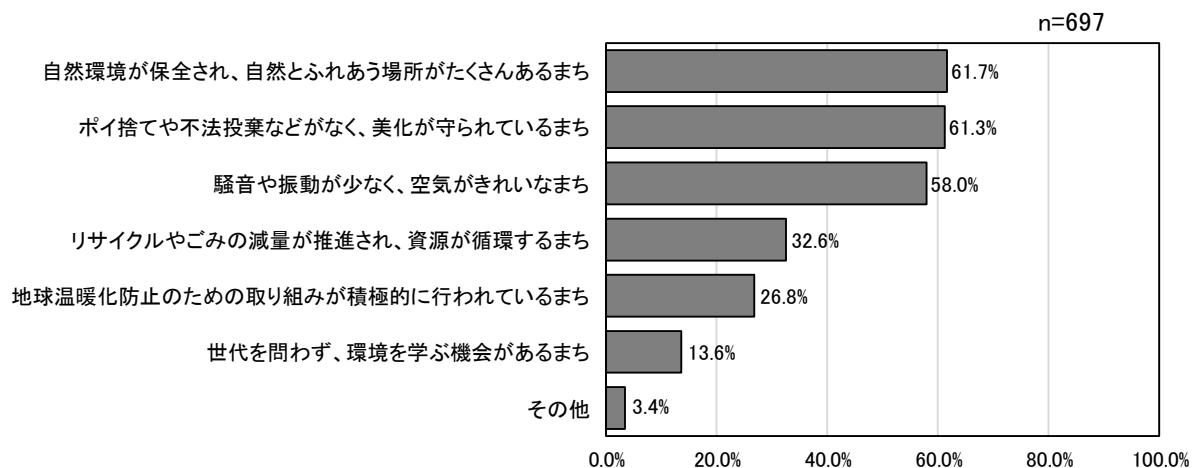


岡崎市の将来の環境像についてお伺いします。

問 11 あなたが望む、岡崎市の環境の 10 年後の姿について、下記の中から該当する番号を選んでください。(3つまで)

あなたが望む、岡崎市の環境の 10 年後の姿については、「自然環境が保全され、自然とふれあう場所がたくさんあるまち」で 61.7%でした。次いで、「ポイ捨てや不法投棄などがなく、美化が守られているまち」の 61.3%、「騒音や振動が少なく、空気がきれいなまち」の 58.0%が続いています。

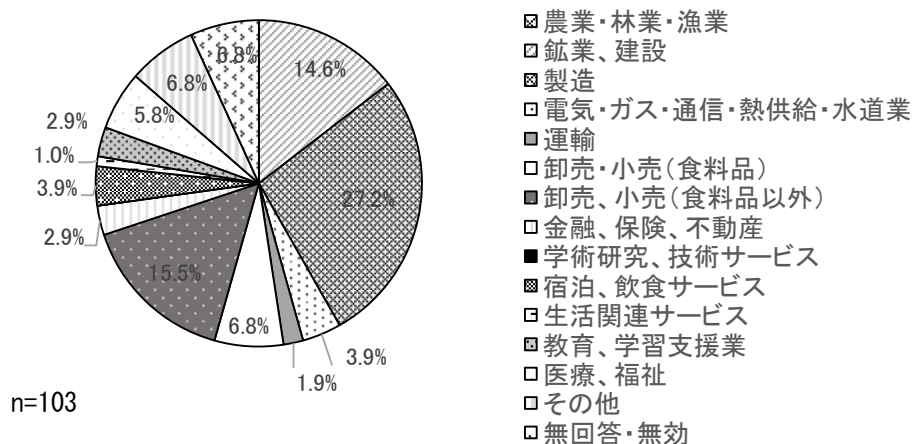
「環境を学ぶ機会のあるまち」は 1 割程度となっています。



3 事業所アンケート調査結果

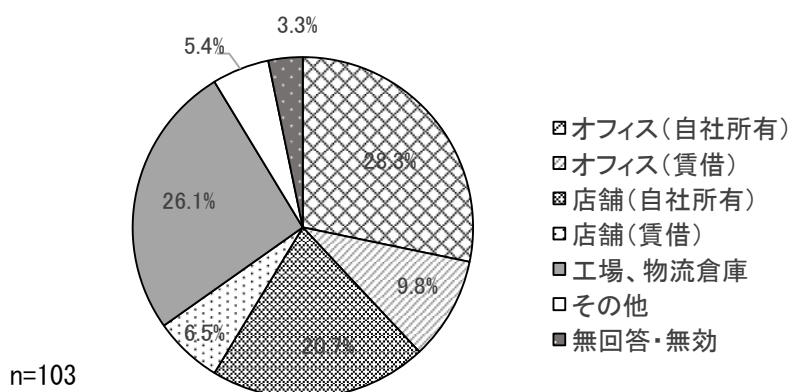
問1 貴事業所の業種について、当てはまる番号を一つ選び、○で囲んでください。

回答のあった業種のうち、割合が高いものは、製造業の27.2%、卸売・小売（食料品以外）の15.5%、鉱業建設の14.6%の順でした。



問2 貴事業所の形態について、当てはまる番号を○で囲んでください。

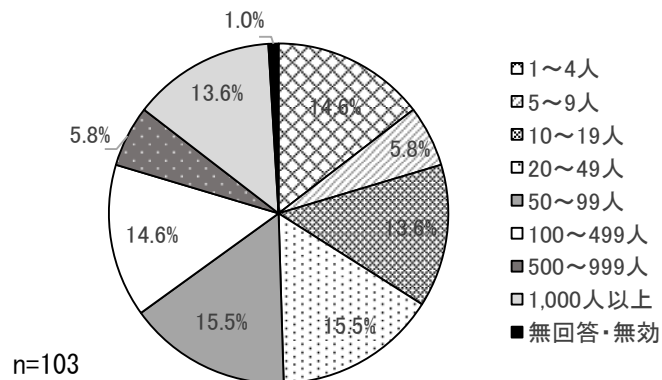
事業所の形態は、自社所有のオフィスの28.3%、工場物流倉庫の26.1%、自社所有店舗の20.7%の順でした。



問3 貴社の全社従業員数は、次のうち、どれですか。当てはまる番号を○で囲んでください。

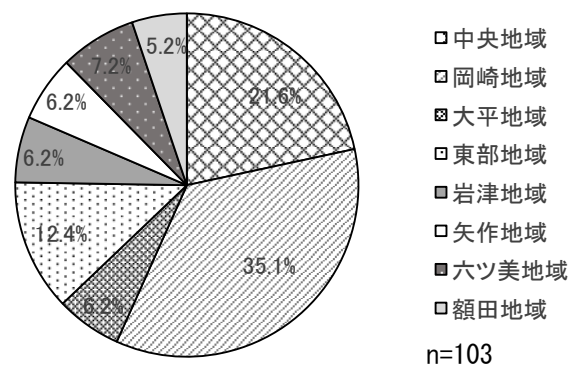
従業員数は 0～49 人が半数近くを占めています。

1,000 人以上の事業所は 13.6%となっています。



問4 貴事業所の所在地域は、次のうち、どれですか。当てはまる番号を○で囲んでください。

岡崎地域の 35.1%、中央地域の 21.6%の順となっています。

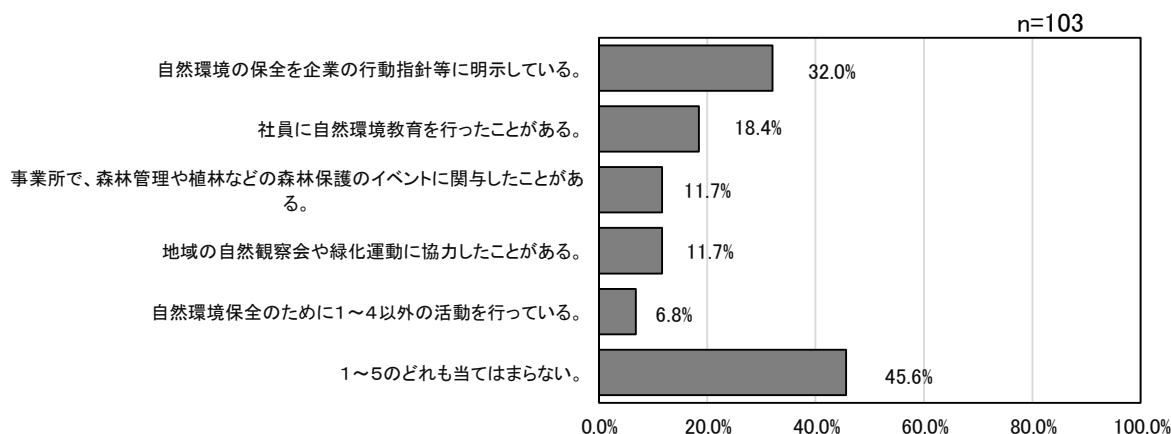


貴事業所の「環境」に対する取組等についてお伺いします。

問5 事業活動における自然環境への関わりについて、おたずねします。当てはまる番号を○で囲んでください。(複数選択可)

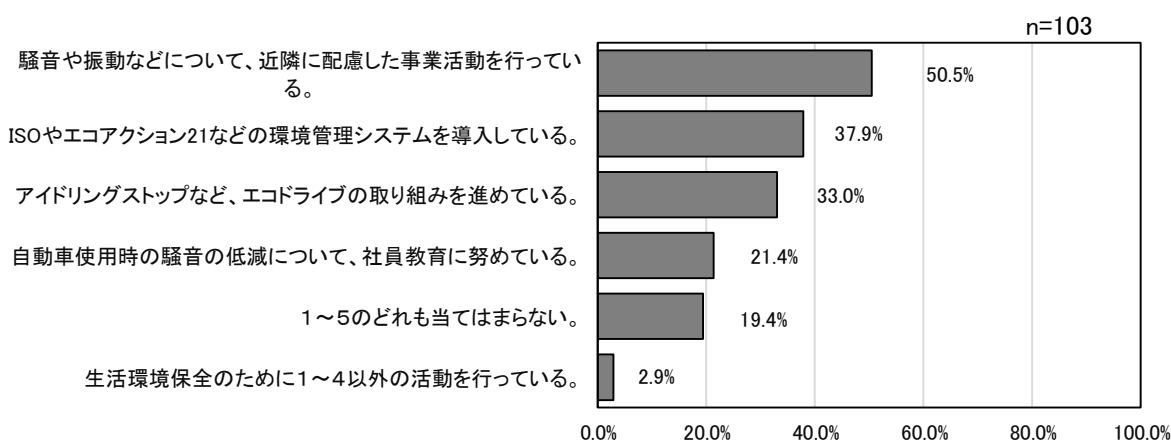
事業活動における自然環境への関わりについては、「1～5のどれも当てはまらない」が最も多く、次いで、「自然環境の保全を企業の行動指針等に明示している」の32.0%、「社員に自然環境教育を行ったことがある」の18.4%が続いています。

その他の活動としては、自然再生植林ボランティア活動などが挙げられています。



問6 事業活動における生活環境(大気、騒音、振動など)への関わりについて、おたずねします。当てはまる番号を○で囲んでください。(複数選択可)

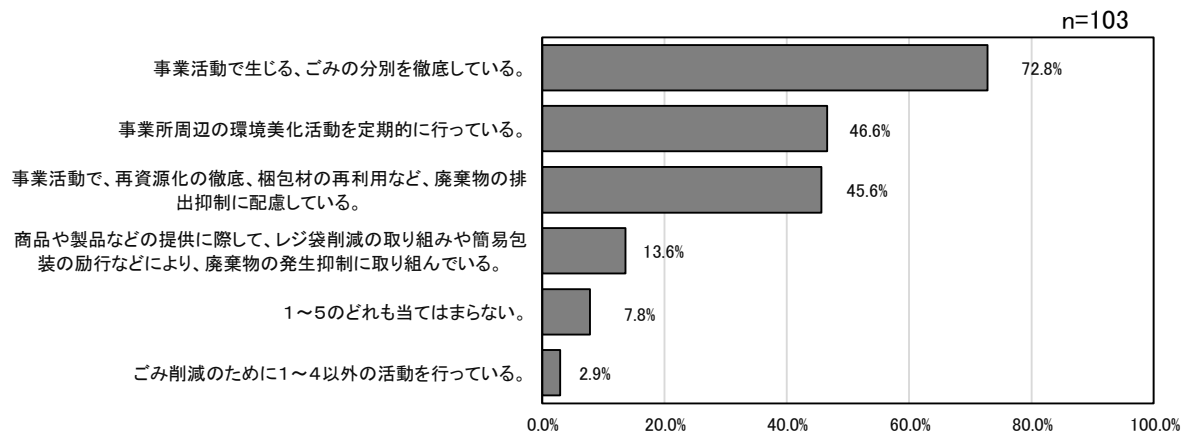
事業活動における生活環境(大気、騒音、振動など)への関わりについては、「騒音や振動などについて、近隣に配慮した事業活動を行っている」で50.5%でした。ISOやエコアクション21などの環境管理システムの導入も37.9%の事業所が取り組んでいます。



問7 事業活動におけるごみ問題への関わりについて、おたずねします。当てはまる番号を○で囲んでください。(複数選択可)

事業活動におけるごみ問題への関わりについては、「事業活動で生じる、ごみの分別を徹底している」で 72.8%でした。「事業所周辺の環境美化活動を定期的に行っている」、「事業活動で、再資源化の徹底、梱包材の再利用など、廃棄物の排出抑制に配慮している」がそれぞれ 45%程度となっています。

一方で、「どれにも当てはまらない」が 7.8%で、「商品や製品などの提供に際して、レジ袋削減の取組や簡易包装の励行などにより、廃棄物の発生抑制に取り組んでいる」は 13.6%でした。

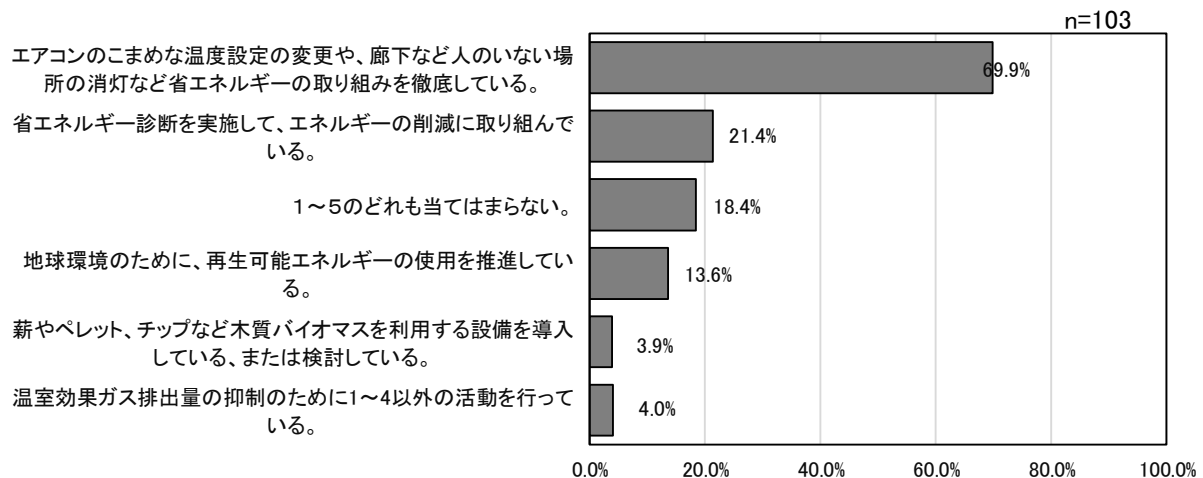


問8 事業活動における地球温暖化問題への関わりについて、おたずねします。当てはまる番号を○で囲んでください。(複数選択可)

事業活動における地球温暖化問題への関わりについては、「エアコンのこまめな温度設定の変更や、廊下など人のいない場所の消灯など省エネルギーの取組を徹底している。」で 69.9%でした。

「省エネルギー診断を実施して、エネルギーの削減に取り組んでいる」と答える割合は 21.4%、「地球環境のために、再生可能エネルギーの使用を推進している」は 13.6%でした。

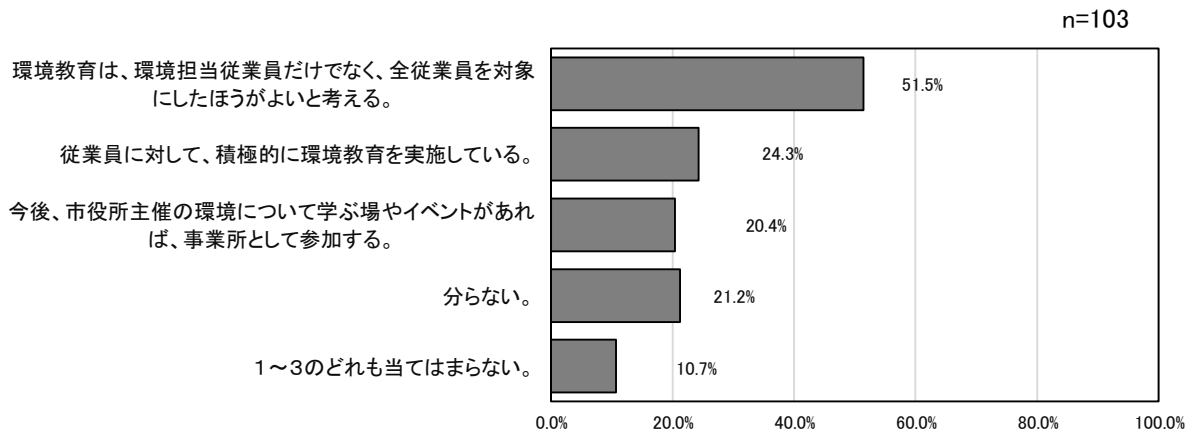
一方で、「どれにも当てはまらない」とする割合は 18.4%となっています。



問9 環境教育について、おたずねします。当てはまる番号を○で囲んでください。（複数選択可）

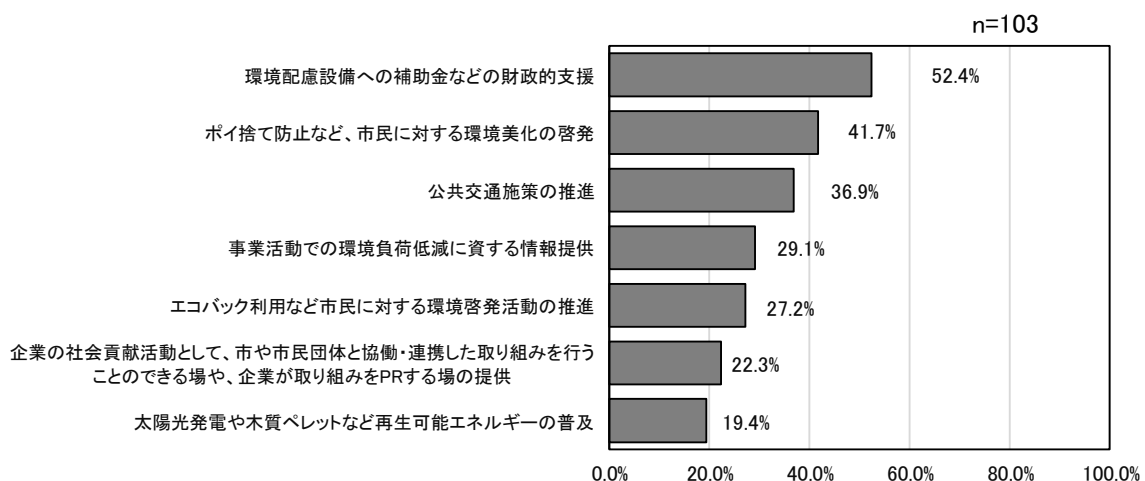
環境教育について最も多かった回答は、「環境教育は、環境担当従業員だけでなく、全従業員を対象にしたほうがよいと考える。」で51.5%でした。

「従業員に対して、積極的に環境教育を実施している」と答える割合は、24.3%、
「今後、市役所主催の環境について学ぶ場やイベントがあれば、事業所として参加する」とする割合は、20.4%となっています。



問10 今後、岡崎市に期待する環境保全施策はどのようなものですか。当てはまる番号を○で囲んでください。（優先すべきもの3つまで）

今後、岡崎市に期待する環境保全施策で最も多かった回答は、「環境配慮設備への補助金などの財政的支援」の52.4%、次いで「ポイ捨て防止など、市民に対する環境美化の啓発」の41.7%などとなっています。



岡崎市の将来の環境像についてお伺いします。

問 11 岡崎市の環境に望まれる 10 年後の姿について、下記の中から該当する番号を選んでください。(3つまで)

岡崎市の環境に望まれる 10 年後の姿については、「ポイ捨てや不法投棄などがなく、美化が守られているまち」で 65.0%、次いで、「自然環境が保全され、自然とふれあう場所がたくさんあるまち」の 59.2%でした。

